

地域と学校がパートナーとなって子供の成長を支える

コミュニティ・スクール通信

岩手県教育委員会事務局
生涯学習文化財課 地域学校連携担当
〒020-0034 岩手県盛岡市内丸 10-1
TEL 019-629-6173
FAX 019-629-6179
E-mail DB0005@pref.iwate.jp

令和4年2月24日発行 第17号

特集：令和3年度県教育研究発表会特設分科会「コミュニティ・スクール」



文部科学省 CS マイスター(国立大学法人宮城教育大学学長付特任教授)

の さわ よし てる 野澤 令照 氏 からの講評

※発表資料をご覧いただいたうえで、講評をいただきました。

1 北上市教育委員会・北上市まちづくり部生涯学習文化課

「北上市の目指すコミュニティ・スクール導入の在り方」

—学校運営協議会と地域学校協働本部が連携・協働し一体となって進める取組を通して—
発表者：指導主事 中野 誉史 氏 ・ 主査 島田 晶夫 氏

- ・1年目に設置したパイロットスクール及びモデル地域の経験をコミュニティ・スクール等連絡協議会にて共有し、新設するCSに活かしていこうとする市の姿勢が参考になる。
- ・学校運営協議会を所管する教育委員会、地域学校協働本部を所管するまちづくり部がしっかり連携している点が素晴らしい。他の自治体にも見習って欲しい取組である。

2 岩泉町立小本中学校 「岩泉町におけるコミュニティ・スクールの取組」

—小本小・小本中のCSの取組を中心として—

発表者：副校長 佐々木 得洋 氏

- ・町としてCSを導入する意図が明確であり、平成17年という早い時期から試行に取組んだ実績は貴重である。学校支援地域本部事業にいち早く参画するなど先見の明がある。
- ・小中連携教育推進のために、小本小、小本中に設置されていた学校運営協議会を統合した取組は、新たなCS推進の好事例として、全国に発信できる内容である。

3 岩手県立一関工業高等学校 「学校運営協議会について」—取り組みの中での気づき—

発表者：指導教諭 加藤 正 氏

- ・学校課題を把握し、改善に向けての有効性を意識した上で学校運営協議会を設置したことが素晴らしい。準備段階の苦勞などの話は、今後設置する高校に大いに参考なる。
- ・高校の魅力化を図ると高い目標を達成するためにCSを活用する考え方が良い。
- ・大学、地域の産業界等との連携を大切にする姿勢は、高校のCSにとって大切なことである。全国の参考になる事例である。

4 八幡平市教育委員会 「学校運営協議会を活用したカリキュラム・マネジメント」

—地域のちからを子どものちからに（八幡平市の教育）—

発表者：社会教育指導員兼CSアドバイザー 藤嶋 茂美 氏

- ・「地域のちからを子どものちからに」という市の理念のもと、計画的にCSを設置して来たことや、教育委員会にCSアドバイザーを設置したことは、大いに参考になる。
- ・カリキュラムの中に、学校運営協議会や地域学校協働活動の役割を明確に位置付けていることが素晴らしい。また、それぞれの学校の課題や地域の実情に合わせて、活動を工夫しているのも良い。中学校でのキャリア教育の取組は、ぜひ参考にして欲しい。

発表者の皆様、そして、ご講評いただきました野澤先生、ありがとうございました。

発表動画及び資料は、総合教育センターHPにて、2/28（月）まで視聴できます。（事前登録した方のみ）

本通信は下記ホームページに掲載しています。（※ダウンロード可能）

岩手県生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>



「まなびネットいわて」には、文部科学省が作成したパンフレットや全国の事例紹介があります。また、岩手県が作成した資料や県内の事例等の紹介もあります。ぜひ、ご覧ください。